日本の学童ほいく

新ロゴでリニューアル

みんなで読もう
目標
3万8000部

全国学童保育連絡協議会

普及拡大ニュース

2021年3月26日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

元気が出る
みんなの取り組みを
ご紹介

地域での普及拡大の取り組み

三多摩の取り組み

三多摩連協活動の様々な場面で、ほいく誌の活用を

「ほいく誌」を活用し、その存在、内容の認知を高める努力を行ってきている。あわせて、構成団体や会員にいっそうの購読を働きかけていく。構成団体や会員の参加する月１回の運営会議では身近で役立つ記事を紹介して「ほいく誌」の有用性を伝え、認知度の向上を図ることとあわせて、定価の改定についても状況を伝え、理解をお願いしたうえで普及拡大を促している。また、2021年1月24日にオンラインで開催した「三多摩フォーラム」(研究集会) でも参加者に同様の呼びかけを行った。

鳥取の取り組み

コロナ禍の中で指導員向け保護者向けの「ほいく誌」を紹介するお便りを発行

「新型コロナウイルス感染症」拡大の影響で会議も研修も行えない状況のため、「ほいく誌」を紹介する「おたより」を発行することにしました。2020年10月に始め、購読している全クラブに配布。２回目は2021年２月発行の予定。10月発行の１回目は指導員向け。２回目は保護者向けとなるような内容にしました。「ほいく誌」の中身の紹介。部員が各々、直近の数号から企画を選び、読んでの感想やおすすめしたいところ、「たのしいな」で紹介されたあそびを実際に行ったときの写真などを掲載しました。

沖縄の取り組み

ほいく誌の活用促進のための支援員学習会を開催

①役員会及び運営委員会で、全国連協の状況報告
　→ 各地域・クラブに持ち帰り、次年度以降の全世帯購読の実施を検討
②「ほいく誌」の活用促進のための支援員学習会を開催 → 支援員から保護者への波及
③地域連協の通信にて、「ほいく誌」の紹介

＊支援員＝放課後児童支援員等

日本の学童ほいく４月号

特集　ようこそ！出会い・広がれ・学童保育

４月、新たな仲間との出会い・生活がはじまります！
今回の特集では、学童保育での生活の様子、指導員の関わり、保護者の思いや願いの交流を通して、「よりよい学童保育」をつくるうえで大切にしたいことを共にたしかめあいます。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

新ロゴでリニューアル

みんなで読もう目標 3万8000部

2021年3月26日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

長崎県大村市●保護者から

2021年２月号の特集「全国の学童保育研究集会ーこれまでの歩み」を読み、学童保育発展の歴史と、これまで積み重ねらた努力と今後の課題を知ることができました。（略）自分が親になった今、共働きで仕事の帰りが遅くなる日々、近隣に頼れる親類がいないため、学童保育がなければ、自分の仕事のあり方から考えなおす必要に迫られます。学童保育は、我が家にとって、学校が終わった後の子どもを見守ってくれるありがたい存在です。とくに、昨今のコロナ禍においては、緊急事態宣言で「学校臨時休業」が実施された中で、学童保育の重要性が多くの方に理解されたと思います。

埼玉県寄居町●指導員から

これまで日々の仕事に追われ、帰宅後も２人の子どもの育児に追われ、『日本の学童ほいく』をゆっくり読むという気持ちのゆとりがありませんでした。しかし、地元でその話題が出たことを機に、「できない、読めない」ではなく、「どうしたら読めるだろう？」と考え方を変え、「出勤したら毎日10分読む」という自分の決まりをつくりました。読めば『日本の学童ほいく』が素晴らしく大切で、ためになるということは、きっと多くの指導員がわかってくれると思います。しかし、読み込むのがむずかしい。保護者、読んでいない指導員にその魅力を伝えるためにも、まず私自身がしっかり読みたい。そんな思いをいま抱いています。来年は私のなかの決意だけで終わらせないように、モニター登録させていただきました。微力ではありますが、少しでも普及拡大の力になれますように。

＊『日本の学童ほいく』を指導員の仕事をする上での参考として活用している学童保育が多くあります。

私と「ほいく誌」

全国連協役員リレー執筆・今月は三多摩の戸塚丈夫さん

松崎運之助さんのエッセーには、毎回はっとさせられます。連載第13回（2016年4月号）の「花ふぶき」は、お母さんの苦悩、子どもの成長、そして子どもへの愛情を感じずにはいられませんでした。

読者の中にも仕事と子育ての両立に苦悩している人が少なからずいることでしょう。「花ふぶき」に登場するお母さんもその一人。上司から残業の依頼を受けるが、子どもを迎えに行く時間。タイミング悪く保育園から下の子の発熱の連絡が入る。そんなことが重なり、職場での人間関係はギスギスし、追い打ちをかけるように上司からのきつい一言……。それでも、子どもにさびしい思いをさせたくないし、生きて行くためには働かなければならない。泣きたい気持ち、晴れないこころ。そして学童保育に向かう自分。悔し涙でする「子育て失格」の思いを辛抱強く聞いてくれた経験豊富な指導員さん。最後には、指導員さんの一言で気持ちがスーッとなり、何よりも子どもの笑顔で気持ちが楽になる。気持ちに少しゆとりが出た時、無邪気な子どもの姿に思う。それが、「私にはこの子がいる。私はこの子の親なのだ」。子へのいとしさ、そして親としての幸せを思い出させてくれる。そんなすてきなエッセーが大好きです。

編集・発行 全国学童保育連絡協議会 〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-13 TEL●03-3813-0477 FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou